

1 所在地 兵庫県姫路市玉手字鹿谷道

2 調査期間 一九八八年(昭63)一月～一九八九年二月

3 発掘機関 姫路市教育委員会

4 調査担当者 山本博利

5 遺跡の種類
集落跡

6 遺跡の年代 一五〇一六世紀

7 遺跡及び木簡出土遺構の概要

玉手遺跡は姫路市大井川土地区画整理事業地内に所在する。発掘調査は、姫路市西郊の玉手村の南外れに都市計画道路亀山線の建設

が計画されたので、その一部において実施した。

遺跡は、調査区の西半部が微高地、東半部が低湿地で、前者から掘立柱建物、溝、土壇等を、後者から部分的な護岸石列等を検出した。

出土遺物は、一五世紀代

を中心とし、一部一六世紀に及ぶ備前焼をはじめとする国産陶磁器
中国製磁器、須恵質・土師質・瓦質等の日常雑器の他、漆椀・滑石
製石塙・硯・呪符木簡（一点）・須恵質の仏像・卒塔婆状木片等があ
る。

遺跡の性格としては、集落跡としたが、中世の居館、寺院等の可能性も残っている。

呪符木簡は、低湿地へ数メートル入り込んだ、やや深みの個所から直立して検出された。さらに木簡直下には、直径3cm前後の杭状の竹がやはり直立して遺存しており、木簡の下端部がこの竹に何らかの方法で固定されていた可能性が大きい。このことは、本木簡の使用法を考える手がかりとなろう。

8 木簡の釈文・内容

(1)

□ □ □

□ □ □ [王力]

〔符籙〕鬼急々如律令□□□□□

[王力] □□□□水神□也□□

380×28×5 019

「水神」の二文字に加えて、現状でも豊潤な湧水の認められる低湿地内より、使用状況をそのまま留める形で出土した事実に鑑み、本呪符木簡の祈願するところが、雨乞あるいは止雨等の水と密接に関わることであったことは間違いないだろう。

なお木簡の釈文については、奈良国立文化財研究所の綾村宏氏の

御教示を得た。

9 関係文献

姫路市文化財保護協会『文化財だより 第二号』（一九八九年）

（山本博利）

『平城宮出土墨書土器集成Ⅱ』公刊さる

『平城宮出土墨書土器集成Ⅰ』につづくもので、平城宮出土の墨書土器で第一〇四次発掘調査から第一六五次調査までに発掘されたものと、かつて一九二八・三二年出土のもので、溝辺家所蔵のものをふくめて収録したもの。積文と写真をそろえ、必要なものには実測図を収録している。さらに出土遺構の解説を加えている。ⅠとⅡとあわせることによって、平城宮出土の墨書土器の七割ちかくが公表されたことになる。なお一冊分の墨書土器がその後の発掘調査によって蓄積されているとのことである。多忙をきわめた勤務条件にあることは周知のとおりだが、ひきつづきの公刊が望まれる。

発行者 奈良国立文化研究所、出版 真陽社

定価四、五〇〇円

申込は 京都市下京区油小路仏光寺上ル 真陽社へ

兵庫・袴狭遺跡 はかざ

1 所在地 兵庫県出石郡出石町袴狭

2 調査期間 一九八八年（昭63）一〇月～一九八九年三月

3 発掘機関 出石町教育委員会

4 調査担当者 小寺 誠

5 遺跡の種類 祭祀遺跡

6 遺跡の年代 八～九世紀

7 遺跡及び木簡出土遺構の概要

出石町は北但馬の東部に位置し、町を縦断して北流する出石川に沿って町が開けている。遺跡はこの出石川に注ぐ袴狭川という小河

川ぞいにあり、すぐ北側には昨年二点の木簡と多量の木製祭祀具の出土した砂入遺跡が存する。

今回当地において県営圃場整備が計画され、これにともない河川沿いを中心に遺跡確認調査を実施した。調査地の標高は七m前後を



(出 石)